

---

# 初夢

望月愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

初夢

### 【Nコード】

N3477B

### 【作者名】

望月愛

### 【あらすじ】

夢と現実ってやっぱり違って：：でも夢に何かを期待してしまふ：：。とても短いお話です。新年にあわせて書いてみました。評価お願いします（＜人＞）

——夢を見た。

幸せな夢。——

「美羽、そろそろ起きて降りてきなさい。」

階段に響く母親の声で幸福の余韻から放たれ、現に呼び戻される。

もうちょっとこの幸せを感じていたいから聞こえていないふりをする。

「早く降りて来ないとお年玉あげないわよ。」

∴ それは困る。

ので、しぶしぶ起き上がり大きく伸びをした。

「あけましておめでとうございます。」

居間には父、母、小四の弟、祖母……家族全員が集まっていた。

テーブルの上には湯気をあげるお雑煮が人数分置かれている。

「美羽、あけましておめでとう。」

「おめでとうございます。」

新年の挨拶が交わされる。

「さ、食べましょう。」

母が言った。

ご飯中テレビから芸人の騒がしい笑い声が聞こえてくる。

さっきまでの幸せな気持ちはどんどん不確かなものになっていく。

「美羽、元気無いわねえ？」

祖母が心配そうに言う。

「そんな事無いよ。」

急な問いかけに声が少し裏返った。

「そうだ、お年玉あげなきゃね。」

そう言って祖母はポケットから2つのポチ袋を取り出した。

「わーい、ありがとう！」

弟の勝幸が言った後、私もお礼を言った。

父親からお年玉を貰う。すると母親が言った。

「美羽はもうすぐ就職だから今年が最後のお年玉だね。」

そう。私は今年一年制の調理師専門学校に通う19歳。

4月からはこの家の近くの病院で働く。

楽しい学生生活もあと僅か……

「ねえお母さん、僕初夢見たよ。」

10歳離れた弟が嬉しそうに言う。

「勝幸、初夢っていうのは1月1日から2日にかけて見るものよ。だから、今朝見た夢は違うのよ。」

「そうなの！？すっごく楽しい夢だったのに。」

勝幸が寂しそうにうつむく。

「どんな夢だったの？」

祖母が優しく問う。

「じゅん君とひろと君と僕がね、魔法を使えて宿題をすぐ終わらせてたくさん遊んだり、空を飛べて、富士山の上を飛ぶ夢みたの。富士山を初夢で見ると良いんでしょ？だから僕嬉しかったのに。」

「そうね、今夜見れたら良かったのにね。でも楽しい夢見れて良かったじゃない。」

母が言う。しかし弟は残念そうだ。  
すると祖母が言った。

「その夢は去年の一番最後に見たんだから、去年一年が楽しかったっていう証拠よ。」

「じゅん君とひろと君と仲良く過ごせたんだな。」

父が言う。勝幸は大きく頷いた。

この会話に胸を打たれた。

……私の夢……私が今朝見た夢もそういう意味なの？

新しい年に向けられたものでなく、去年、あなたと過ごした時間が  
幸せだったねって、……思い出にする為の夢だったのかな？

そうなら虚しいよ。

幸せな夢を見た。

あなたと二人、付き合い出したばかりに戻れた夢。

夢の中の私は大喜びであなたの腕にしがみついて町中を歩いていた。あなたも笑顔いっぱいだったの。

ただ、それだけの夢。

それだけの夢で私はすっごく嬉しくて、幸せだったの。

あなたから告白してきたのにさ、  
気付いたら、私はどんどんあなたを好きになっていて、  
あなたが私を好きって気持ちより大きくなっていて、  
まるで抱き合う度、あなたの熱を奪ってしまっていたかのようで……

私はそれに気付けなかったね。

もういい加減ふっきらなきゃ。

この夢と共に終わりにしよう。  
『幸せな思い出』として……

「さて、初詣行くぞ。」

「僕、また富士山の夢見れるようにお願いしよー。」

祖母が優しく笑う。

「何言ってるの。勉強のお願いしなさい。」

母が叱るがその口調は柔らかい。

初詣で今年一年の幸せを祈ろう。

今夜の夢にあなたが出ませんように。

そして、12月31日、今年の最後の夢に、あなたが出なくても素敵な夢が見れるように。



**(後書き)**

あなたはどんな初夢をみましたか？

読んで頂けたら是非評価してください!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3477b/>

---

初夢

2010年12月11日18時08分発行